(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3928181号
(P3928181)
(45)発行日　平成19年6月13日(2007.6.13)　(24)登録日　平成19年3月16日(2007.3.16)

(51)Int.Cl.　F I
G06F 17/22 (2006.01)　G06F 17/22 522M
G06F 17/21 (2006.01)　G06F 17/21 586E

請求項の数 4　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願平7-756
(22)出願日　平成7年1月6日(1995.1.6)
(65)公開番号　特開平8-190553
(43)公開日　平成8年7月23日(1996.7.23)
審査請求日　平成13年12月25日(2001.12.25)

(73)特許権者　000002185
ソニー株式会社
東京都港区港南１丁目７番１号
(74)代理人　100122884
弁理士　角田　芳末
(74)代理人　100113516
弁理士　磯山　弘信
(74)代理人　100080883
弁理士　松隈　秀盛
(72)発明者　田中　出
東京都品川区北品川６丁目７番３５号　ソニー株式会社内

審査官　長　由紀子

最終頁に続く

(54)【発明の名称】文書作成装置及び文書作成方法

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

平仮名列の入力を行う平仮名列入力手段と、

上記平仮名列を任意の単語に分割する分割手段と、

上記分割された平仮名列からなる単語を、辞書を参照して上記平仮名以外の文字記号を含む語句に変換する変換手段と、

上記分割された平仮名列の表示された位置に、上記変換手段において候補となる上記文字記号を含む語句をユーザの操作に従って１つずつ表示する候補語句表示手段と、

上記語句を選択する候補語句選択手段と、

上記候補語句表示手段により表示される上記変換候補の最終候補が上記候補語句選択手段により選択されなかった場合に、所定のシンボルを上記分割された平仮名列の表示された位置に表示するシンボル表示手段と、

上記シンボル表示手段により表示されたシンボルを選択することで、上記分割された平仮名列と任意の文字記号からなる上記分割された平仮名列以外の語句とを対応付けて上記辞書に登録する単語登録機能を起動する単語登録機能起動手段と

を備えることを特徴とする文書作成装置。

【請求項２】

請求項１記載の文書作成装置において、

上記単語登録機能起動手段は、上記分割された平仮名列をさらに分解する単漢字機能を有し、

分解されたそれぞれの文字ごとに所望の漢字を選択可能とする
ことを特徴とする文書作成装置。
【請求項３】
平仮名列の入力を行う平仮名列入力手段と、
上記入力された平仮名列を任意の単語に分割する制御手段とを有する文書作成装置における文書作成方法において、
上記分割された平仮名列からなる単語を、辞書を参照して上記平仮名以外の文字記号を含む語句に変換し、
候補語句表示手段により上記分割された平仮名列の表示された位置に、上記変換において候補となる上記文字記号を含む語句をユーザの操作に従って１つずつ表示すると共に、上記表示される上記変換候補の最終候補が上記候補語句選択手段により選択されなかった場合に、所定のシンボルを上記分割された平仮名列の表示された位置に表示し、
候補語句選択手段により上記語句の選択を行うと共に、上記表示されたシンボルを選択することで、上記分割された平仮名列と任意の文字記号からなる上記分割された平仮名列以外の語句とを対応付けて上記辞書に登録する単語登録機能を起動する
ことを特徴とする文書作成方法。
【請求項４】
請求項３記載の文書作成方法において、
上記単語登録機能は、上記分割された平仮名列をさらに分解する単漢字機能を有し、
分解されたそれぞれの文字ごとに所望の漢字を選択可能とする
ことを特徴とする文書作成方法。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、平仮名列を入力してこの平仮名列から任意の文字記号を含む文書を作成するようにした文書作成装置に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
文書作成装置、いわゆるワードプロセッサーにおいては、平仮名列を入力してこの平仮名列から任意の文字記号を含む文書を作成することが行われる。この場合に、入力された平仮名列は任意の操作によって変換される単語ごとに分割され、この分割された平仮名列の単語に対して任意の文字記号を含む語句への変換が行われる。
【０００３】
このような文書作成装置において、平仮名列から語句への変換は予め装置内に登録されたいわゆる辞書を用いて行われる。すなわち分割された平仮名列の単語に対して任意の変換の操作を行うと、その単語に対応して辞書に登録された語句が順次表示される。そして所望の語句を選択決定することによって、平仮名列がその所望の語句に変換されるものである。
【０００４】
ところがこのような文書作成装置において、予め装置内に登録される辞書には全ての語句を登録することは不可能である。このため予め登録される辞書には、汎用の一般的に使用頻度が高いと見做される語句のみが登録されている。従って上述のように辞書に登録された語句が順次表示されても、表示される語句の中に所望の語句が含まれていない場合が生じる。
【０００５】
そこでこのような場合には、いわゆる単漢字の選択機能によって、語句に含まれる文字記号を１文字ずつ順番に選択決定することが行われる。ところがこの場合に、同じ単語が繰り返し使用された場合には、その同じ単語が使用される度に上述の単漢字の選択を行わなければならず、このような選択を行うことは使用者に極めて煩雑な操作が要求されるものである。

【０００６】
これに対して、文書作成装置においては、使用者が独自の辞書を追加登録できるようにした、いわゆる単語登録の機能が設けられている。すなわちこの単語登録の機能においては、例えば上述の単漢字の選択機能によって選択決定された語句に対して「読み」の平仮名列を入力することによって、この平仮名列の単語に対応して選択決定された語句が辞書に追加登録されるものである。
【０００７】
従ってこのような単語登録を行うことによって、その後に同じ単語が使用された場合には、上述の追加登録された語句も含めて辞書に登録された語句が順次表示されるようになる。そして所望の語句を選択決定することによって、上述の単漢字の選択機能による選択決定を行うことなく、平仮名列がその所望の語句に変換されるようになるものである。
【０００８】
ところがこのような文書作成装置において、上述の単語登録の機能は通常の文書の入力とは別個の機能として行われている。このため単語登録を行う場合には、任意の操作によって単語登録の機能を開始させ、例えば単漢字の選択機能によって選択決定された語句を指定した後に「読み」の平仮名列を入力するなどの操作が必要とされる。
【０００９】
従ってこのような単語登録を行う場合には、通常の文書の入力を中断して操作が行われ、使用者にとっては単漢字の選択よりは回数は減るものの、やはり煩雑な操作が要求されるものである。このため一般の使用者では、このような単語登録の機能は利用されていないことが多く、依然として単漢字の選択を繰り返すなど、不合理な操作が行われていた。
【００１０】
【発明が解決しようとする課題】
この出願はこのような点に鑑みて成されたものであって、解決しようとする問題点は、従来の装置では単語登録の機能が通常の文書の入力とは別個の機能として行われているために、この機能が利用されていないことが多く、依然として不合理な操作が行われていたというものである。
【００１１】
【課題を解決するための手段】
本発明による第１の手段は、平仮名列の入力を行う平仮名列入力手段と、平仮名列を任意の単語に分割する分割手段と、分割された平仮名列からなる単語を、辞書を参照して平仮名以外の文字記号を含む語句に変換する変換手段と、分割された平仮名列の表示された位置に、変換手段において候補となる文字記号を含む語句をユーザの操作に従って１つずつ表示する候補語句表示手段と、語句を選択する候補語句選択手段と、候補語句表示手段により表示される変換候補の最終候補が候補語句選択手段により選択されなかった場合に、所定のシンボルを分割された平仮名列の表示された位置に表示するシンボル表示手段と、シンボル表示手段により表示されたシンボルを選択することで、分割された平仮名列と任意の文字記号からなる分割された平仮名列以外の語句とを対応付けて辞書に登録する単語登録機能を起動する単語登録機能起動手段とを備えることを特徴とする文書作成装置である。
【００１２】
本発明による第２の手段は、第１の手段記載の文書作成装置において、単語登録機能起動手段は、分割された平仮名列をさらに分解する単漢字機能を有し、分解されたそれぞれの文字ごとに所望の漢字を選択可能とすることを特徴とする文書作成装置である。
【００１３】
本発明による第３の手段は、平仮名列の入力を行う平仮名列入力手段と、入力された平仮名列を任意の単語に分割する制御手段とを有する文書作成装置における文書作成方法において、分割された平仮名列からなる単語を、辞書を参照して平仮名以外の文字記号を含む語句に変換し、候補語句表示手段により分割された平仮名列の表示された位置に、変換において候補となる文字記号を含む語句をユーザの操作に従って１つずつ表示すると共に

、表示される変換候補の最終候補が候補語句選択手段により選択されなかった場合に、所定のシンボルを分割された平仮名列の表示された位置に表示し、候補語句選択手段により語句の選択を行うと共に、表示されたシンボルを選択することで、分割された平仮名列と任意の文字記号からなる分割された平仮名列以外の語句とを対応付けて辞書に登録する単語登録機能を起動することを特徴とする文書作成方法である。

【００１４】

本発明による第４の手段は、第３の手段記載の文書作成方法において、単語登録機能は、分割された平仮名列をさらに分解する単漢字機能を有し、分解されたそれぞれの文字ごとに所望の漢字を選択可能とすることを特徴とする文書作成方法である。

【００１６】

【作用】

これによれば、入力された平仮名列が任意の単語に分割され、この分割された平仮名列からなる単語を平仮名以外の文字記号を含む語句に変換するに当たり、任意の操作に従って変換候補となる語句を順次表示すると共に、この候補語句と共に単語登録の機能を起動するシンボルを表示することによって、単語登録の操作を通常の文書の入力と関連性を持たせることができる。

【００１７】

また、単語登録の機能を起動するシンボルが選択決定されたときは任意の単語登録の機能を起動することによって、起動の操作を変換候補の選択と同一の操作で行うことができ、各機能の処理間の移行が容易に行われ、使用者の操作性を向上させることができる。

【００１８】

さらに、単語登録の機能は、分割された平仮名列からなる単語に対して、任意に選択決定された平仮名以外の文字記号を含む語句を登録することによって、再度「読み」を入力する必要がなく、単語登録を円滑に行うことができる。

【００１９】

また、単語登録の機能を起動するシンボルを変換候補が表示されるときのみ表示することによって、無効の状態で誤って単語登録の機能が起動されて通常の文書の入力が不用意に中断されることがなく、円滑な文書の入力を行うことができる。

【００２０】

さらに、単語登録の機能を起動するシンボルを変換候補の最終候補の後に表示することによって、使用者が所望の候補を検索した後にシンボルが表示され、単語登録の機能を円滑に起動させることができる。

【００２１】

【実施例】

図１は本発明による文書作成装置において文書を入力する際の表示の一例を示す。この図１において、Ａに示すように入力された平仮名列が分割されて例えば「きのう」の単語が取り出される。この状態で変換の操作が行われると、例えばＢに示すように「きのう」の単語の表示された位置に、辞書に登録された第１の変換候補として例えば「昨日」の語句が表示され、この状態で決定の操作が行われると、この表示された語句（「昨日」）が決定される。

【００２２】

さらに決定される前の状態で次候補の操作が行われると、Ｃに示すように辞書に登録された第２の変換候補として例えば「機能」の語句が表示される。さらに次候補の操作が行われると、Ｄに示すように第３の変換候補として例えば「帰納」の語句が表示される。さらに次候補の操作が行われると、Ｅに示すように最後の変換候補として例えば「キノウ」の語句が表示される。またそれぞれの状態で決定の操作が行われると、それぞれの表示された語句が決定される。

【００２３】

さらに最後の変換候補の語句が表示された例えばＥに示す状態で、さらに次候補の操作が行われると、本発明においては例えばＦに示すように〔登録〕のシンボルが表示される。

ここでこのシンボルは単語登録の機能を起動するものであって、このシンボルが選択決定されるとまず最初に例えば単漢字の機能が起動されて「きのう」の単語がさらに「き－のう」または「き－の－う」に分解され、それぞれの文字ごとに例えば漢字等への変換が行われる。

【００２４】

すなわち「き」に対しては、「器機気木記期樹既奇軌基忌黄季生紀汽旗騎来着・・・キ」の漢字等が順次表示されて所望の漢字等が選択される。また「のう」に対しては、「能脳農・・・ノウ」の漢字等が順次表示されて所望の漢字等が選択される。あるいは「の」に対しては、「野之・・・ノ」の漢字等が順次表示されて所望の漢字等が選択される。また「う」に対しては、「鵜卯宇禹・・・ウ」の漢字等が順次表示されて所望の漢字等が選択される。

【００２５】

あるいは、本来の読み以外の読み、例えば「いずる」という読みから「出」の漢字が表示されなかった場合には「で」の読みを再入力して「出」の漢字を得るようにすることもできる。

【００２６】

このようにして入力された平仮名列からなる単語に対して所望の語句が形成される。あるいは、漢字の部首や画数、またはＪＩＳコード等によって所望の漢字等を選択して所望の語句を形成することもできる。そしてこの状態で決定の操作が行われると、上述の形成された語句が決定される。それと共に本発明においては、この形成された語句が、上述の入力された単語の平仮名列に対する変換語句として辞書に追加登録される。

【００２７】

さらに図２は本発明による文書作成装置の一例の構成を示す機能ブロック図である。この図２において、１は平仮名やアルファベット、数字、記号、その他のファンクションキー等の設けられるキーボード、あるいはマウス、タブレットとタッチペンの組などの入力部を示す。この入力部１によって、文書作成のための任意の平仮名列の入力やその他の機能の選択の指示等が行われる。そして例えばこの入力部１で入力された平仮名列がバッファメモリ２に書き込まれる。

【００２８】

また、３はかな漢字変換部であって、ここでは上述のバッファメモリ２に書き込まれた平仮名列が供給され、入力部１の操作に従って任意の平仮名以外の文字記号を含む語句に変換する処理が行われる。すなわちこの変換部３では、供給された平仮名列が任意の単語に分割され、この分割された平仮名列に対して辞書メモリ４が参照されて、対応する平仮名以外の文字記号を含む語句への変換が行われる。そしてこの変換された文書が再びバッファメモリ２に書き込まれる。

【００２９】

さらにこのバッファメモリ２に書き込まれた文書が表示部５に供給される。これによってこの表示部５には、最初に図１のＡに示すように入力された平仮名列が任意の単語に分割されて表示される。なおこの分割は任意の入力部１の操作によって変更することができる。そしてこの状態で入力部１で変換の操作が行われると、分割された単語が第１の変換候補の語句に変換され、この文書がバッファメモリ２に書き込まれて、図１のＢに示すように表示部５に表示される。

【００３０】

また、入力部１で次候補の操作が行われると、分割された単語が第２、第３及び最後の変換候補の語句に変換され、この文書がバッファメモリ２に書き込まれて、図１のＣ、Ｄ、Ｅに示すように表示部５に表示される。そしてこれらの図１のＡ～Ｅの状態で入力部１で決定の操作が行われると、このときバッファメモリ２に書き込まれている語句が決定されると共に、この語句が切替え部６を通じ
て学習機能部７に供給され、辞書での変換候補の順位が更新される。

【００３１】

さらに、最後の変換候補の語句に変換され図１のＥに示すように表示部５の表示が行われている状態で、さらに入力部１で次候補の操作が行われると、バッファメモリ２には元の入力された平仮名列が書き込まれると共に、表示部５には例えば〔登録〕のシンボルが図１のＦに示すように表示される。そしてこの状態で入力部１で決定の操作が行われると、バッファメモリ２に書き込まれた元の平仮名列が切替え部６を通じて単語登録部８に供給される。

【００３２】

ここでこの単語登録部８では、上述の単漢字の機能によって所望の語句の形成が行われる。この形成された語句は随時バッファメモリ２に書き込まれて表示部５に表示される。そして所望の語句が形成された状態で入力部１で決定の操作が行われると、このときバッファメモリ２に書き込まれている語句が決定されると共に、この語句が学習機能部７を通じて辞書メモリ４に供給され、形成された語句が元の平仮名列と共に登録される。

【００３３】

さらに図３は本発明による文書作成装置の処理の一例の流れを示すフローチャート図である。この図３において、処理が開始されると、先ずステップ〔１〕でかな漢字変換の処理が行われる。すなわちこのステップ〔１〕で、図２の入力部１から入力された平仮名列に対して変換が要求されると、この平仮名列がかな漢字変換部３に渡され、そこで辞書メモリ４を参照して変換が行われる。

【００３４】

次にステップ〔２〕で表示処理が行われ、かな漢字変換部３からの変換候補がバッファメモリ２を通じて表示部５に表示される。さらにステップ〔３〕で次候補の要求があったか否か判断され、要求があったとき（Ｙｅｓ）は、ステップ〔１〕に戻されて次の候補への変換が行われる。またステップ〔３〕で次候補の要求がないとき（Ｎｏ）は、ステップ〔４〕で候補の決定が行われたか否かが判断され、決定が行われていないとき（Ｎｏ）はステップ〔２〕に戻される。

【００３５】

さらにステップ〔４〕で候補の決定が行われたとき（Ｙｅｓ）は、ステップ〔５〕で決定された候補が〔登録〕であるか否かが判断され、〔登録〕でないとき（Ｎｏ）はステップ〔６〕で学習の処理が行われて終了される。またステップ〔５〕で決定された候補が〔登録〕のとき（Ｙｅｓ）は、ステップ〔７〕で単語登録の処理が行われ、ステップ〔６〕の学習の処理を通じて終了される。

【００３６】

従ってこの装置において、かな漢字変換の変換候補の中に〔登録〕のシンボルを含ませ、この〔登録〕のシンボルが選択されることによって単語登録の処理が起動されるようにしたので、かな漢字変換の処理と単語登録の処理とを一連の操作で行うことができ、これによって単語登録の処理が容易に行われ、毎回単漢字の機能で語句を入力したり、特別の操作によって単語登録の機能を起動させる必要がなく、文書の作成を円滑に行うことができる。

【００３７】

こうして上述の装置によれば、入力された平仮名列が任意の単語に分割され、この分割された平仮名列からなる単語を平仮名以外の文字記号を含む語句に変換するに当たり、任意の操作に従って変換候補となる語句を順次表示する（図１のＡ～Ｅ）と共に、この候補語句と共に単語登録の機能を起動するシンボルを表示する（図１のＦ）ことによって、単語登録の操作を通常の文書の入力と関連性を持たせることができるものである。

【００３８】

また、単語登録の機能を起動するシンボルが選択決定されたときは任意の単語登録の機能を起動することによって、起動の操作を変換候補の選択と同一の操作で行うことができ、各機能の処理間の移行が容易に行われ、使用者の操作性を向上させることができるものである。

【００３９】

さらに、単語登録の機能は、分割された平仮名列からなる単語に対して、任意に選択決定された平仮名以外の文字記号を含む語句を登録することによって、再度「読み」を入力する必要がなく、単語登録を円滑に行うことができるものである。

【００４０】

また、単語登録の機能を起動するシンボルを変換候補が表示されるときのみ表示することによって、無効の状態で誤って単語登録の機能が起動されて通常の文書の入力が不用意に中断されることがなく、円滑な文書の入力を行うことができるものである。

【００４１】

さらに、単語登録の機能を起動するシンボルを変換候補の最終候補の後に表示することによって、使用者が所望の候補を検索した後にシンボルが表示され、単語登録の機能を円滑に起動させることができるものである。

【００４２】

また上述の装置において、変換候補に含まれるシンボルによって単語登録の機能が起動されるので、この機能の起動のための余分なキースイッチや余分な表示等を設ける必要がなく、キーボードや表示を簡素化することができる。

【００４３】

また上述の処理において、かな漢字変換のプログラムや表示選択等のユーザーインターフェイスは、既存のものを継承しているので、既存の装置に対して容易に組み込むことができると共に、使用者も本発明の装置に対して容易に移行することができる。

【００４４】

さらに本発明の装置は、上述のように分割された単語の位置に順次候補の語句が表示されるものに限らず、例えばウィンドウによって候補の語句が集合で表示されるようにしてもよい。すなわち図４のＡに示すように、上述例の「きのう」の単語に対して、「昨日」「機能」「帰納」「キノウ」の語句と、〔登録〕のシンボルが集合で表示される。

【００４５】

このような表示に対しては、例えば上下左右のカーソルキーや、マウス、あるいはタブレットとタッチペンの操作によって、語句あるいは〔登録〕のシンボルの選択を直接行うことができる。従ってこの場合には、上述の図３のフローチャートでステップ〔３〕の次候補の要求の判断は不要になる。そしてこの場合も、候補の語句と共に〔登録〕のシンボルが表示され、このシンボルが選択されることによって、単語登録の機能を円滑に起動させることができる。

【００４６】

ただしこの場合に、候補の語句の数が多くて、一度に表示できない場合には、例えば図４のB_1、B_2に示すように候補の語句の集合を分割して表示する。この場合に、「↓」「↑」の表示はそれぞれ他の変換候補が存在することを示しており、例えば入力部１において「次頁」「前頁」の操作を行うか、いわゆるスクロールバーなどによって他の変換候補が表示されるようにする。

【００４７】

なおこの場合においては、上述の図３のフローチャートでステップ〔３〕の位置で、次候補の要求の判断に代えて、頁切替え等の表示部５に対する切替えの制御が判断される。そしてステップ〔２〕に戻されることによって、再度切替えられた頁の表示の処理が行われる。さらにこの場合も、候補の語句と共に〔登録〕のシンボルが表示され、このシンボルが選択されることによって、単語登録の機能を円滑に起動させることができる。

【００４８】

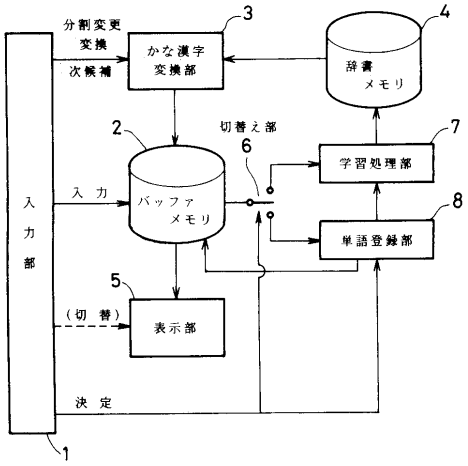
また、例えば図５に示すように、各候補に番号等の記号を付して表示することも考えられる。この場合に数字キー等によって候補の選択が行われると共に、頁の切替えは、例えばカーソルが１あるいは９の候補にあるときに、それぞれ前候補や次候補のキーを操作することで行うことができる。そしてこの場合も、候補の語句と共に〔登録〕のシンボルが表示され、このシンボルが選択されることによって、単語登録の機能を円滑に起動させることができる。

【００４９】
さらに〔登録〕のシンボルの表示は、例えば図６に示すように、候補の集合がが分割されて表示される各頁ごとに、表示される変換候補の最終候補の後に表示されるようにしてもよい。
【００５０】
【発明の効果】
この発明によれば、入力された平仮名列が任意の単語に分割され、この分割された平仮名列からなる単語を平仮名以外の文字記号を含む語句に変換するに当たり、任意の操作に従って変換候補となる語句を順次表示すると共に、この候補語句と共に単語登録の機能を起動するシンボルを表示することによって、単語登録の操作を通常の文書の入力と関連性を持たせることができるようになった。
【００５１】
また、単語登録の機能を起動するシンボルが選択決定されたときは任意の単語登録の機能を起動することによって、起動の操作を変換候補の選択と同一の操作で行うことができ、各機能の処理間の移行が容易に行われ、使用者の操作性を向上させることができるようになった。
【００５２】
さらに、単語登録の機能は、分割された平仮名列からなる単語に対して、任意に選択決定された平仮名以外の文字記号を含む語句を登録することによって、再度「読み」を入力する必要がなく、単語登録を円滑に行うことができるようになった。
【００５３】
また、単語登録の機能を起動するシンボルを変換候補が表示されるときのみ表示することによって、無効の状態で誤って単語登録の機能が起動されて通常の文書の入力が不用意に中断されることがなく、円滑な文書の入力を行うことができるようになった。
【００５４】
さらに、単語登録の機能を起動するシンボルを変換候補の最終候補の後に表示することによって、使用者が所望の候補を検索した後にシンボルが表示され、単語登録の機能を円滑に起動させることができるようになった。
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明による文書作成装置の一例の説明のための図である。
【図２】本発明による文書作成装置の一例の構成図である。
【図３】その説明のための図である。
【図４】他の例の説明のための図である。
【図５】他の例の説明のための図である。
【図６】他の例の説明のための図である。
【符号の説明】
１　入力部
２　バッファメモリ
３　かな漢字変換部
４　辞書メモリ
５　表示部
６　切り替え部
７　学習機能部
８　単語登録部

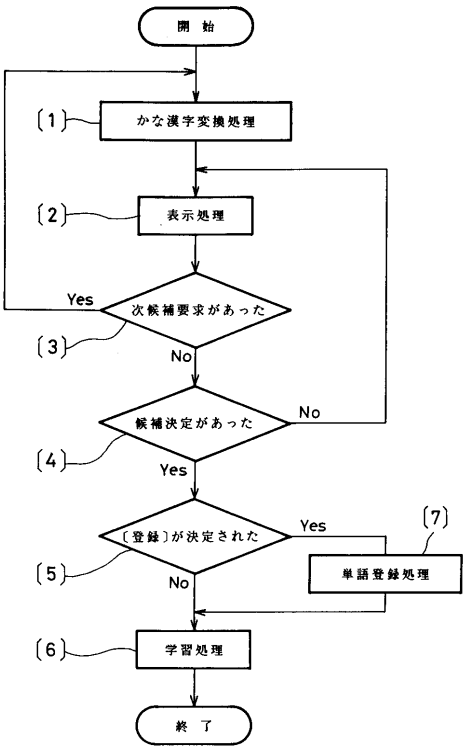
【図１】


A ○○○○きのう○○○
B ○○○○昨日 ○○○
C ○○○○機能 ○○○
D ○○○○帰納 ○○○
E ○○○○キノウ○○○
F ○○○○〔登録〕○○○

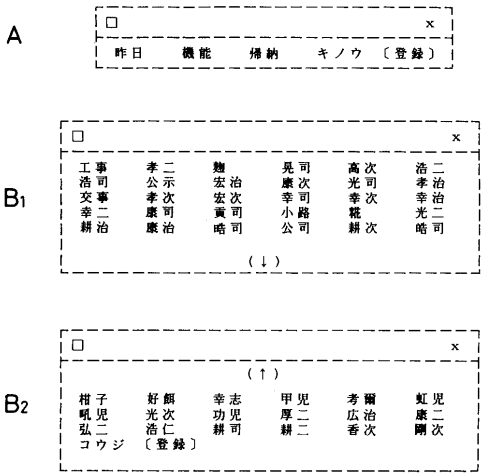
【図２】


分割変更
変換
次候補
かな漢字
変換部
辞書
メモリ
切替え部
入力
バッファ
メモリ
学習処理部
単語登録部
入力部
(切替)
表示部
決定

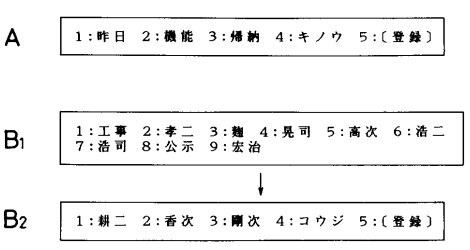
【図３】


開始
(1)
かな漢字変換処理
(2)
表示処理
Yes
次候補要求があった
(3)
No
候補決定があった
No
(4)
Yes
〔登録〕が決定された
Yes
(7)
(5)
No
単語登録処理
(6)
学習処理
終了

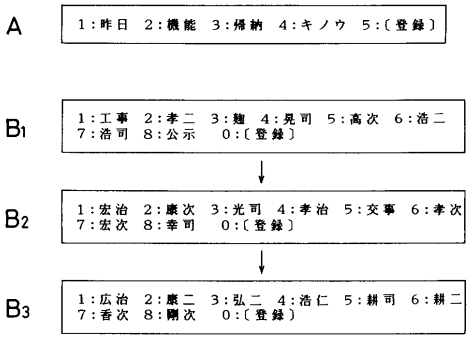
【図４】


A
昨日 機能 帰納 キノウ 〔登録〕
B1
(↓)
B2
(↑)
柑子 好餌 幸志 甲児 考爾 虹児
吼児 光次 功児 厚二 広治 康二
弘二 浩仁 耕司 耕二 香次 剛次
コウジ 〔登録〕

【図５】


A
1:昨日 2:機能 3:帰納 4:キノウ 5:〔登録〕
B1
1:工事 2:孝二 3:麹 4:晃司 5:高次 6:浩二
7:浩司 8:公示 9:宏治
B2
1:耕二 2:香次 3:剛次 4:コウジ 5:〔登録〕

【図６】


A
1：昨日 2：機能 3：帰納 4：キノウ 5：〔登録〕
B1
1：工事 2：孝二 3：麹 4：晃司 5：高次 6：浩二
7：浩司 8：公示 0：〔登録〕
B2
1：宏治 2：康次 3：光司 4：孝治 5：交事 6：孝次
7：宏次 8：幸司 0：〔登録〕
B3
1：広治 2：康二 3：弘二 4：浩仁 5：耕司 6：耕二
7：香次 8：剛次 0：〔登録〕

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０６－０９６０５６（ＪＰ，Ａ）
特開平０２－２５５９４５（ＪＰ，Ａ）
特開平０６－１１９３１４（ＪＰ，Ａ）
特開昭６３－０３０９６２（ＪＰ，Ａ）
特開平０４－１６７１６７（ＪＰ，Ａ）
特開平０５－１８９４３９（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
G06F 17/21 -26
G06F 3/14